オンラインによる日本語指導

茨城県提供

取組の概要

〇指導体制の工夫：遠隔教育（１人１台端末の活用）　※在籍校教員とオンライン指導者による指導
〇対　　象：中学校及び義務教育学校（後期課程）に在籍する日本語指導を必要とする生徒（日本語指導教室非設置校を対象）
〇指導方法の工夫：外部専門機関（筑波大学）と連携したオンライン学習による日本語指導の充実（週２、３単位時間）
DLA（対話型アセスメント）結果に基づく学習集団による生徒の日本語の習熟の程度に応じた指導の充実

※日本語サポーター（筑波大学）による支援方法　**日本語で学ぶ力の段階を６段階の「ステージ」に分けて実施**

ステージ	支援の段階	支援方法
５～６	支援付き自律学習段階	双方向型オンライン ※少人数クラス （３～４名程度）
３～４	個別学習支援段階	
１～２	初期支援段階	

【オンライン支援の様子】

【オンライン修了式】

〇成　　果：DLA＜話す＞を２回実施した35名については日本語能力向上。特にステージ１～２の生徒の回答率が向上。
ステージ３～４の生徒については、「認知タスク」での伸びが顕著であった。
オンライン学習や他者との関わりを通して将来の目標を見出し、進学する高校への進学などにつなげた。

ICT活用のメリット

- オンライン学習による日本語支援を実施することで、指導体制が整っていない学校や支援が行き届きくい学校の生徒に支援を行うことができる。
- バーチャル空間でのコミュニティーができ、外国人生徒の居場所づくりにつながった。
- プレゼンテーションソフトを活用し視覚的に資料を提示することで、生徒の理解を助け、日本語能力の向上につながった。

〇活用したソフトや機能
【ウェブ会議システム】
【プレゼンテーションソフト】

オンラインによる日本語指導

茨城県提供

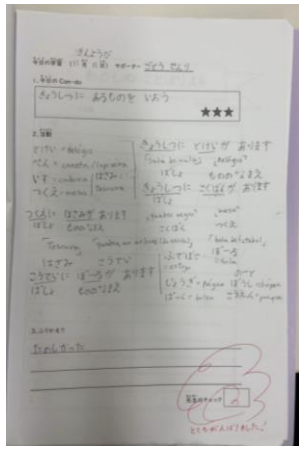
指導例

〇指導目標　：「自分の国と日本を比べよう」
〇対　　象　：中学校 1年生 3名　※ステージ4程度
〇指導の流れ：

アイスブレイク → Can-Doの提示 → 活動 → ふりかえり

世界地図を見て、知っている国について話す。

本時の目標を共有する。

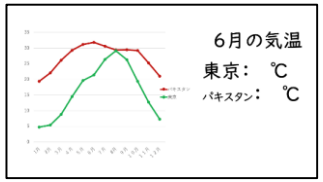


【学習の記録】

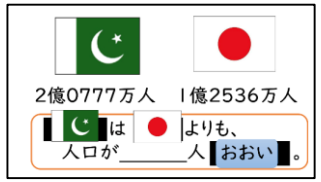
母国での経験や各国の特徴について話し合う。
文型「 ～は…よりも＿＿ 」の導入
- 日本と母国の気候を比較する。【グラフの読み方】
- 日本と母国の人口を比較する。【大きな数字】
- 日本と母国の相違点について話し合う。

学習内容を３～５文でまとめる。
学校の先生に振り返りの内容を報告する。

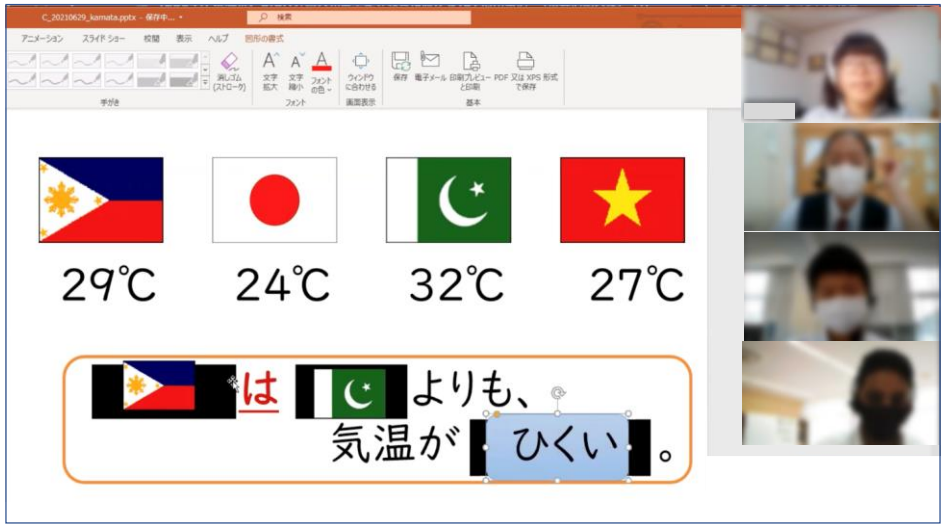
〇使用教材等：
・国際交流基金『いろどり』『まるごと』等の日本語教材を参照しつつ、大学生サポーターがスライドを作成。
・生徒の発言や質問に応じて、随時、画像や動画などのオンライン・コンテンツを授業内で活用。



【グラフを読む活動】



【人口を比較する活動】



【オンライン支援の様子】

ICT活用のメリット

・生徒が**自発的に発話**しやすく、サポーターも生徒の発話を指導に生かしやすい。
・遠隔地においても在籍校教員や生徒、大学生サポーター間で**協力して活動を行う**ことができる。
・他の中学校に通う同じルーツをもつ生徒や、同学年の生徒の存在が**学習意欲向上**につながる。